

は前期比 3.6% の増) などに加えて、4 月にはかなり高率の定例昇給(引上げ率約7%、昨年約5%)が行なわれた事情が響いている。また6、7月には夏季賞与の支給が行なわれたが、3 月期決算の好転を反映してかなりの支給増加(昨年比約9%の増)をみた。

最近の雇用・消費諸指標の動き

(消費性向を除き
前年同期比増加率)

区 分	33年 10~12月	34年 1~3月	4月	5月	6月	4~6月
常用雇用指数	3.2	3.6	5.0	5.3	—	—
賃 金 //	4.2	4.1	5.7	6.5	—	—
支払賃金 //	7.5	7.8	11.0	12.1	—	—
都市勤労者 世帯実収入	6.5	4.7	5.6	7.3	8.7	7.4
消 費 支 出	6.6	6.0	3.8	7.0	5.0	5.2
平均消費性向 (前年同期)	82.2 (82.4)	94.8 (93.8)	92.2 (94.3)	93.8 (94.9)	73.6 (77.0)	85.2 (87.7)
全国百貨店	9.5	9.3	5.3	12.6	11.4	9.6
小 売 店	7.0	14.0	—	—	—	—

(注) 1. 労働省、通産省、総理府、全国百貨店協会調べ。
2. 支払賃金指数は常用雇用指数と賃金指数との積。

このような雇用、賃金面の動きから、4 月以降は勤労者世帯を中心に家計収入の伸びも高まっている(前年同期比1~3月+4.7%、4~6月+7.4%)。1~3月には前記ストの影響などもあり収入の伸び率はよくなかったが、消費者の旺盛な支出態度を反映して消費支出は収入を上回る伸びを示した。さらに4 月以降も、収入の上昇傾向を背景に消費支出はかなりの勢いで伸びている(前年同期比1~3月+6.0%、4~6月+5.2%)。支出項目別には引続き耐久消費財の伸び

(同上4~5月+36.1%) が最も顕著であるが、被服費への支出が久しぶりによく伸びた(同上+8.3%) のが目だつた。この間小売市況もなかなか好調に推移(全国百貨店の前年同期比1~3月+9.3%、4~6月+9.6%) しており、とくに7月の動きを都内主要百貨店の売上高にみるに、中元需要の盛況もあり前年同月に比べ20.6%増と31年春の神武景気時に匹敵する伸びをみせた。やはり売上げの中心は、冷蔵庫、扇風機などの電化製品、家具および肌着、海水着などスポーツ関係衣料など耐久消費財と繊維品であつた。

さてここで最近の月賦販売の動きをみておこう。家計調査における掛買払いの動きでみると、1~6月における月平均掛買払額は2,118円(消費支出総額の7.2%) とかなりの伸び(前年同期比+3.2%) を示しているが、消費支出の上昇テンポを上回つてはならず、この面からは月賦販売が最近とくに増加しているまじしはみられない。このところ売れ行きのよい電化製品については、月賦販売も比較的良好に伸びているが(某電器メーカー一月販会社の4~7月における月平均月賦売上高は1~3月に比し約7%の増)、チケット団体、月賦専門店などではますますの伸びであり、自動車は売上げ著増にもかかわらず、現金払いが多くなつており、月賦手形による売上げはほぼ横ばいに推移している模様である。しかし賦払いの中心をなす耐久消費財に対する需要の変化は、非耐久財に比し産業活動に与える影響も大きいので、今後消費内容の高級化ともからんで月賦販売がどのように動くかには十分な注目を要しよう。

国内 経 済 要 録

◇第9次綿花借款契約の調印

本行は、過般来ワシントン輸出入銀行と第9次綿花借款について折衝中であつたが、今般借款限度額30万ドル(前回60万ドル)、金利4.75%(前回3.75%)で話し合いがまとまり、7月29日ワシントンにおいて契約調印を行なつた。

なお借款限度額が前回に比べ半減したのは、米綿価格が割高であるため、輸入が比較的低調とみられているためである。

ちなみに前回の綿花借款60万ドルのうち、約19万ドルは未使用に終つた。